

皆で“ふれあい”“助け合う”防災訓練



城園ハイツ防災会^t



佐陀川

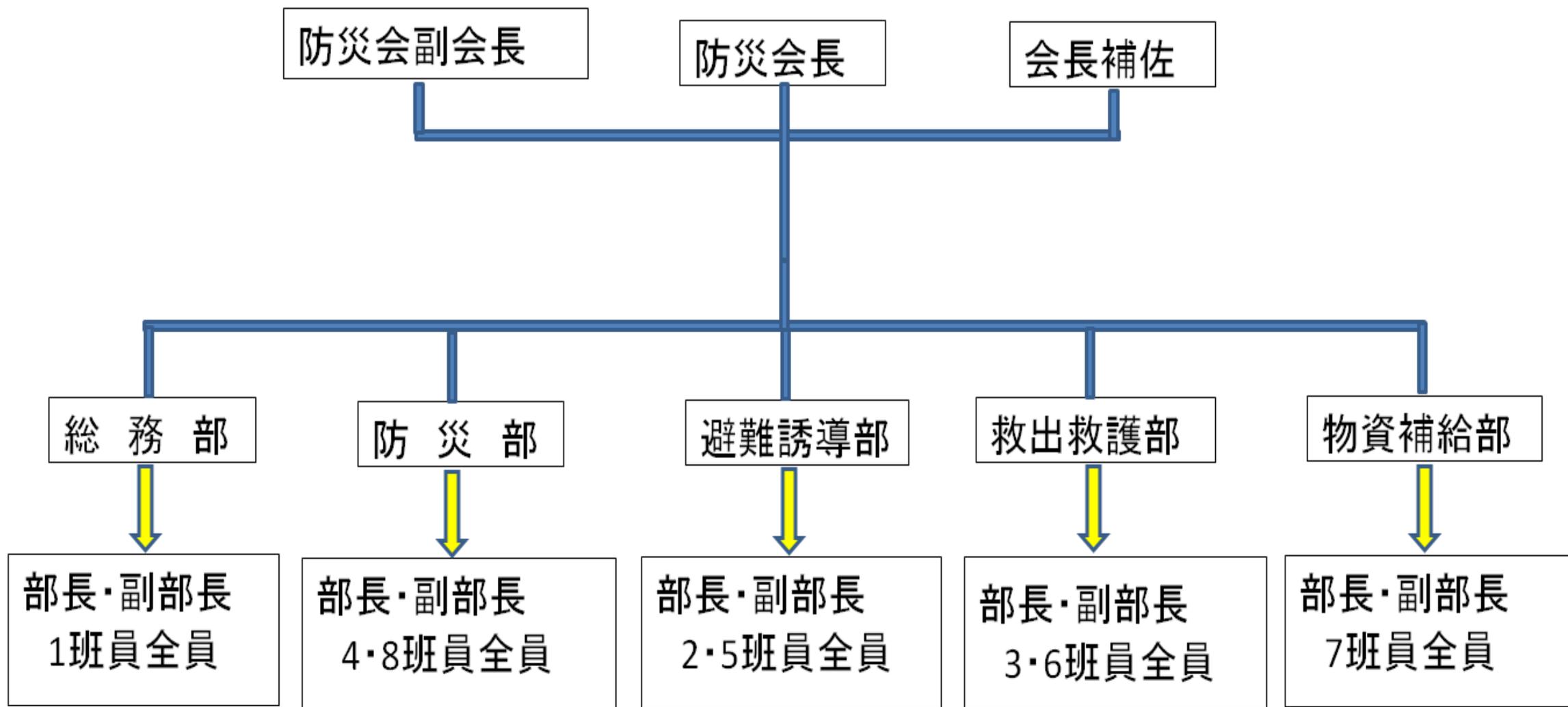
城園ハイツ

精進川

県道淀江・岸本線

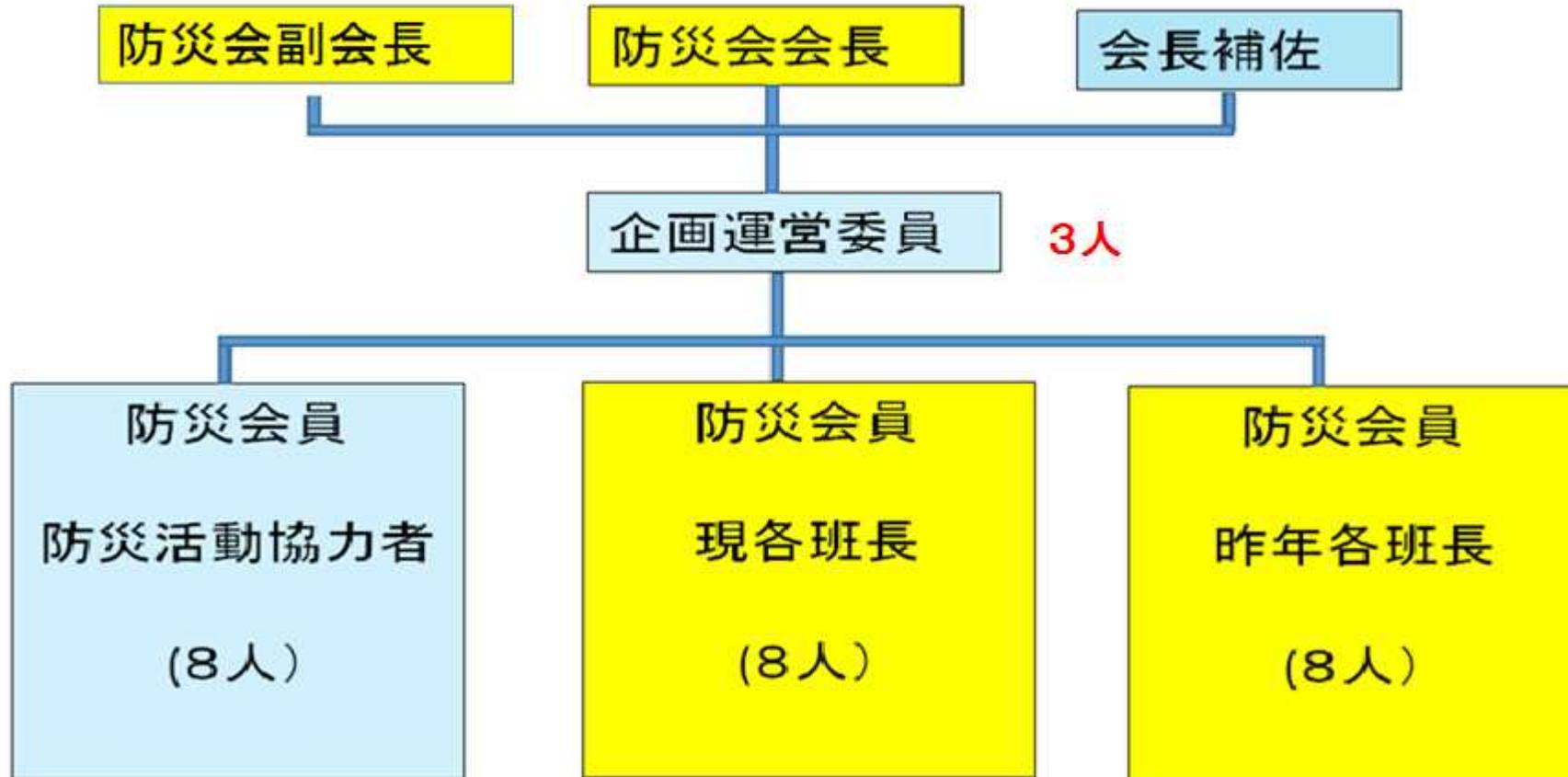
Google

(旧) 組織体制



(現)「城園ハイツ防災会」組織図

～プレーイングマネジャーを重視した組織体制～

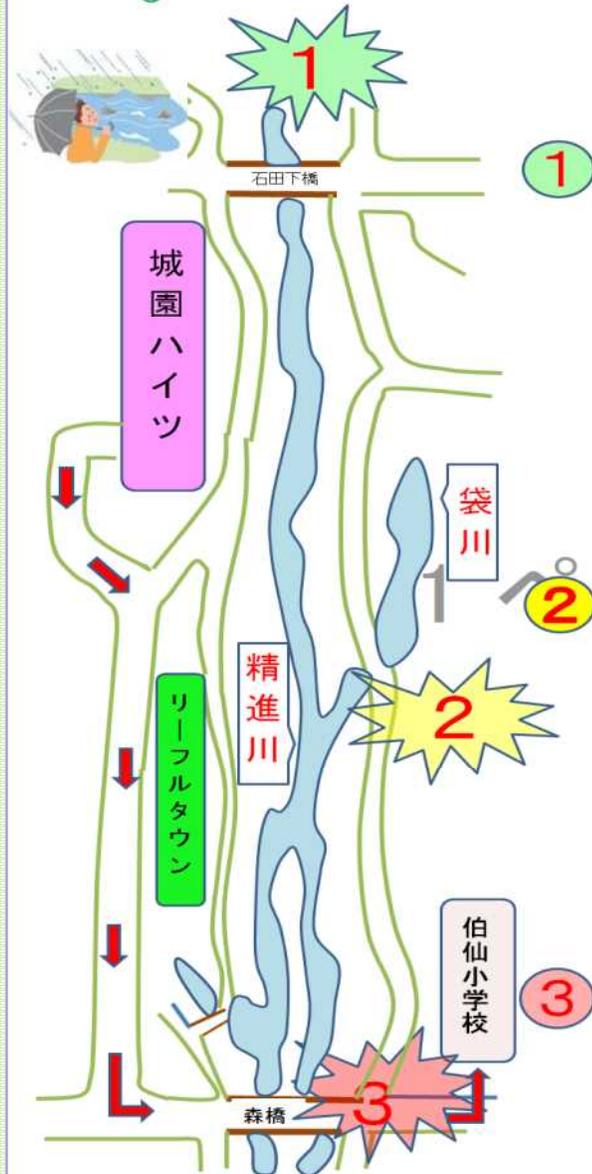


- ～自己都合等で不定期に入れ替わる
- ～定期的に入れ替わる





精進川の要注意マップ



1

- 法面の石垣部分の高さは、2.6Mであるが、その上の部分の土手が決壊する可能性がある。
- 橋桁の下部は土手より低い。従って、橋桁や流木などで水流が阻害された場合、道路に水が流入する恐れがある。
- 危険水位の表示が行われていない。

2

- 袋川は周辺一帯の田畑の用水路としての機能を果たしているが、大雨の際は、田や山に降った雨の排水路にもなり、雨天時は、かなり増水することが予想される。
- この袋川と精進川が合流する場所は、ここを中心に精進川の上流の水位が一気に高くなる可能性もある。

3

- 森橋を渡った左側の土手が低く、そこから路上や森橋を冠水させる可能性がある。その際、同所を利用した避難経路は一考を要する。

避難経路の危険箇所確認







道路の冠水対策

事前対策会議



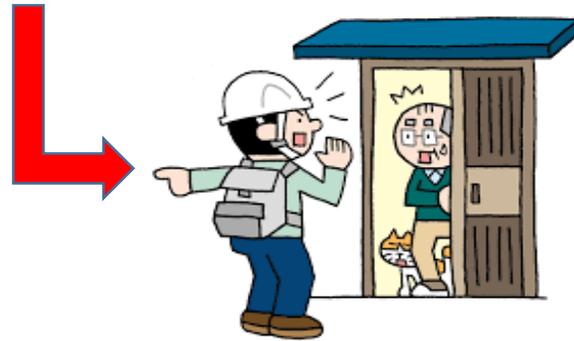
避難所の待ち受け



毛布や飲料水の準備



要支援者の避難



避難の呼びかけ



集団避難

もうすぐ梅雨期の6月を迎えようとしています。日本気象協会による今年の梅雨入りは、例年より若干早く、中国地方は、5月30日から6月13日の間で梅雨明けは、7月中旬頃と予報しています。

また、6月下旬から7月上旬にかけて、大雨の警戒を呼びかけています。梅雨明けまでは、大雨に対する警戒を怠らないようお願い致します。



《災害訓練の一環として「防災講話」を聴講しました》



5月22日(日)、町内の草刈り作業終了後に、約30人で、真壁調整官(米子市地域振興課)による講話を聴講いたしましたのでお知らせします。

※ 本来なら多数の方に聞いて戴きかけたのですが、コロナ感染が3桁代で推移している中、クラスターも懸念されたため、参加者は草刈り作業に従事された人に止めました。講話は、水害や避難行動など添付資料に基づいて話されました。主な内容は次の通りです。

- 西日本豪雨(4年前)で、高齢者や子供など約40人が亡くなった岡山県真備町では、避難した人の多くが近隣の声かけに促されて避難したことや、亡くなった方の9割が自宅一階であった。(避難の際は、近隣同士の声かけと避難が遅れたときは、自宅2階など、高所(垂直避難)への避難が重要。)
- 昨年7月の梅雨前線活発化による大雨の際、大高地区に「土砂災害」の危険性による「高齢者等避難」を発令。しかし、内容の詳細や対象地区が分かり辛かったこともあって、問い合わせや批判が相次いだ。(米子市は、発令内容や対象地区の自治会長にメール若しくは電話で詳細を知らせる等に改善。)
- 米子市の洪水ハザードマップでは、精進川が決壊した場合、城園ハイツは、50cmから3mの浸水が予想される。これは、千年に一度発生するかもしれないかの雨量統計に基づいて作成されている。(あくまでも統計上であり、降雨条件や昨今の温暖化傾向による大雨などで想定外の事態もありうる。)
- 避難する際は、水が入って足を取られる長靴でなく、濡れても歩きやすい運動靴が最適。避難時の携行品は、各自の事情に照らした短期避難(1日~2日)の必需品を携行。

～「シャトーおだか」が避難所指定に～



シャトーおだか(米子市尾高)

米子市とファミリーイナダとの協定により、「シャトーおだか」が災害時の避難所として使用できるようになりました。これまで大高地区の避難所となっていた「米子勤労者体育センター」が、耐震上の問題等で使用ができなくなったため、水害時における高所の避難所設定が急務となっていました。これで「安心です」。

(令和二年八月二日付
新日本海新聞参照)

～福祉避難所に「ル・サンテリオンよどえ」～



ル・サンテリオンよどえ(淀江町佐陀)

米子市は、災害時における要配慮者の二次避難所(福祉避難所)として「ル・サンテリオンよどえ」と協定を締結しました。これにより、要配慮者の方も安心して避難ができますし、「災害関連死」の減少にも期待が持てます。

(令和二年八月二日付
新日本海新聞参照)

※要配慮者～高齢者・障害者・乳幼児など、災害時に特別な配慮が必要な人

※二次避難所～一般の避難所での生活を続けることが困難な方を対象にした避難所で、二次避難所(福祉避難所)とも呼ばれています。

※災害関連死～災害による火災・水難・家屋の倒壊など災害の直接的な被害による死ではなく、避難生活の疲労や環境の悪化などによって、病気にかかったり、持病の悪化等で死亡すること。



目指すは、協力できる「防災力」の向上

